

1 調査事件

民生福祉、保健行政及び教育行政の充実について

2 調査概要

(1) 福山市（人口 458,785人）

ア 福山ネウボラの強化について

福山市では、平成29年に、子ども・子育て家庭に対する支援施策全般を総合的に展開する「福山ネウボラ」を創設するとともに、ネウボラ相談窓口「あのね（子育て世代包括支援センター）」を、現在では中核市最多となる13か所に設置し、様々な施策を展開する中で、妊娠・出産・子育てに関し、切れ目のない支援に取り組んでいる。

ネウボラとは、北欧フィンランドの子育て支援制度のことで、妊娠・出産・子育てに関する切れ目のない支援が特徴で、フィンランド語で「アドバイスの場」を意味している。

主な取組内容として、まず、妊娠、出産から子育て期まで切れ目なく支援できる体制の構築するため、「あのね」全所で母子健康手帳を交付し、ネウボラ相談員との面談の実施。不安の高まりやすい妊娠後期面談を促す取組として、相談時に絵本や育児用品などプレゼントを実施している。また、医療費用の助成の拡充や放課後児童クラブ受入の拡充など、子育て世帯のニーズに応える取組を実施するとともに、保育人材確保事業やスマート保育の導入などで多様な保育を実現している。

次に、支援が必要な家庭への対応強化として、子ども家庭総合支援拠点の設置を行い、「あのね」との一体的な運営で妊娠初期から課題のある家庭の支援を行っている。また、児童相談所との人事交流や合同研修による専門性の向上や、ひとり親家庭への支援の強化を行うとともに、子どもの居場所づくり等を行う民間団体とのネットワークづくりを行うなど対応強化を図っている。

その結果、「あのね」の相談件数が平成29年度の7,188件に対し令和4年度は2万817件、認知度については、平成29年度の44.7%に対し令和4年度は86.3%と増加している。このことから、市内で子育てをしたい人についての割合も平成29年度の92.6%に対し令和3年度時点で94.7%と増加傾向となっており、福山ネウボラ強化について、一定の成果が見られている。

一方で、課題として、福山市で子育てをしたいと思う人の割合は増加しているものの、子育てが楽しいと思う人の割合は5割にとどまってお

り、平成27年から令和2年の5年間で出生数は676人減少し、年少人口（0～14歳）は3,814人減少している。また、有配偶者率の低下や女性人口の減少も課題となっている。

今後の強化の取組として、平成29年から5年間の取組の成果と課題、子育て世帯などから寄せられた声や社会状況の変化を踏まえ、子育て環境のさらなる充実を図るため、若者・子育て世代の5つのニーズである「出産・子育てにかかる費用の軽減」、「保育サービスの充実と医療提供体制の確保」、「子どもと楽しめる場所等の創出」、「仕事と子育ての両立支援」、「気軽に相談できる環境づくり」に対応するため、令和6年から福山ネウボラの第2ステージとして取り組んでいくこととしている。

ア フリースクールの取組について

福山市では、複雑化・多様化した不登校等の要因を踏まえ、一人ひとりの児童生徒の状態に応じて、段階的な学習指導やスポーツ活動などを行い、学校への復帰を目指すため、福山市立小中学校及び義務教育学校に在籍する不登校等児童生徒が安心して通うことのできる学校以外の学びの場として、フリースクールかがやきを市内に3か所設置している。フリースクールかがやきは、緩やかに教員や友だちとの関係を築きながら活動することを通して、社会性やコミュニケーション力を育成している。

方針としては、通室日、通室時間等を自分で決め、安心して自分らしく過ごせる場としており、個別、小集団、異学年集団等の形態を自分で選び主体的な学びを実現する場としている。開室日時は月曜日から金曜日の午前10時から午後3時までとし、市内の小中学生は利用料が無料で、市立小中学校在籍者は利用日を在籍校で出席扱いすることとしている。

過ごし方は、個々の状況に応じて、児童生徒及び保護者と職員で相談しながら決め、教材を持参し個別の学習に取り組んだり、オンラインで学校の授業を受けたり、集団でスポーツなどを行ったりして過ごしている。そのため児童生徒は、自分のペースで過ごし方や学習の仕方を決められるため、それぞれの興味・関心から学びに向かうことができている。

成果としては、フリースクールかがやきが、児童生徒や保護者が選択できる多様な学びの場の一つとして認知されてきており、利用者数が、令和元年の小中学生合わせて29人に対し、令和4年は239人と増加している。児童生徒からは、「自分のペースで学習ができる」、「一人でも過

ごせるのでいい」、保護者からは、「同じ悩みを持っている保護者の声が聞けて、苦しんだり悩んだりしているが自分たちの家庭だけでないと分かり、頑張ろうと思った」などの意見が出ており、増加の要因ともなっている。

今後の課題としては、令和4年度の利用児童生徒のうち約4分の1は5日以下の利用などで継続した利用につながらない児童生徒がいること、個に応じた適切な支援を計画し実施するために、職員のアセスメントに係るスキル向上が必要であること、利用者数の増加が続いているため、職員及び施設の確保がさらに必要であることが課題として挙げられている。

今後とも、子ども一人ひとりの個性や多様性を大切にし、「学びが面白い」と実感する「子ども主体の学び」を推進し、子どもたちが自分に合った学び方を選択し、学ぶ意欲や知的好奇心を発揮できるよう、引き続き、学校内外の学びの場の充実に取り組んでいくこととしている。

(2) 名古屋市（人口 2,325,950人）

ア ナゴヤ・スクール・イノベーション事業について

名古屋市では、教育大綱（ナゴヤ子ども応援大綱）に、「日本で一番子どもを応援し、一人の子どもも死なせないマチ ナゴヤ」を掲げ、子ども一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適化な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に推進している。

令和元年度から民間教育研究所と連携し、モデル実践校である小学校1校において、探究的な学びを重視して進める実践研究に取り組んでいる。また、令和2年度からは、「ナゴヤ・スクール・イノベーション事業」とし、授業の改善の取組をさらに広げるため、学校が目指す子ども増の実現に向けた課題・ニーズと、民間事業者の持つ専門的知識や技術、ノウハウ等をマッチングさせ、官民連携で学びの転換を進める実践研究に取り組んでいる。

令和4年度までの取組として、授業改善の推進では、子ども自身が課題を設定し、課題解決のための計画を立て、研究し、成果を発表する探究的な学びを行うプロジェクト型学習実践校及び学校園の課題・ニーズと、民間技術・ノウハウとをマッチングさせ進めるマッチングプロジェクト実践校の公開授業の実施や教職員の意識改革を行うため、学習会などの実施に取り組んでいる。環境整備として、児童生徒1人1台タブレット端末の整備やICT支援員を4校に1人配置に取り組んでいる。ま

た、ナゴヤ・スクール・イノベーション事業に係る公式ウェブサイトを開設するなど周知啓発にも取り組んでいる。

事業の効果としては、実践校における全国学力・学習状況調査の質問調査において、「むずかしいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。」の質問に対し、「当てはまる」を選択した児童生徒の割合が、事業の実施前後で大きく増加している。

今後の課題と方向性については、全ての教職員が共通認識を持って、学びの改革を進めることができるよう、同市の目指す「子ども中心の学び」を示す方針である「ナゴヤ学びのコンパス」策定し、市内の学校園に浸透させるための取組を進めていくこととしている。

イ なごや子育てアプリNAGOMi i（なごみー）について

名古屋市では、妊娠、出産、子育てと切れ目なく子育て家庭をサポートするスマートフォン用の子育て支援情報提供アプリ「なごや子育てアプリNAGOMi i（なごみー）」を開発し、より多くの子育て家庭に必要な情報を手軽に入手できるようにしている

導入に至った経緯として、子育て世代である20代、30代のスマートフォン利用率が8割を超えており、この世代にとっては常に携帯する身近なツールであることから、GPS機能を利用した子育て支援関連施設の地図検索や利用登録者が登録した住所、子どもの生年月日等の属性に応じた情報を効果的に発信するプッシュ機能など、いつでも、どこでも簡単に情報検索ができ、最新の情報を確認することができるという利便性に着目し、速やかに最新の子育て支援情報を提供できるよう、新たな情報提供の手法として活用するため、なごや子育てアプリNAGOMi i（なごみー）を導入している。

利用対象者としては、妊婦、就学前の児童を持つ保護者を対象としており、主な機能として、利用登録時に入力した出産予定日や子どもの生年月日などの情報を基に、行政側から妊婦健診及び乳幼児健診の受診勧奨、新規事業の周知等を行う「お知らせ機能」、GPS機能を活用し、最寄りの子育て支援関連施設の位置検索を行える「施設マップ」、妊娠から出産後を通じて、健診や予防接種の記録、子どもの写真・成長記録などを日記形式で管理する「子育て日記帳」など、そのほか様々な機能を有しており、アプリのダウンロード数は、令和4年度が約1万4,800件で累計9万2,200件となっている。

今後の取組としては、平成28年度の運用開始以降、アンケートなど利用者の声を参考に、これまでも「子育て日記帳」に新たな機能として、「子どものできたことを記録できる機能」、「子どものかかった病気を記録できる機能」の追加や、「子育て日記帳」内に、「なごや予防接種ナビ」へのリンクを掲載し、アプリの活用促進を図るなど、様々な利便性の向上を図っている。今後も利用者の声を参考にし、利便性の向上を図っていくこととしている。